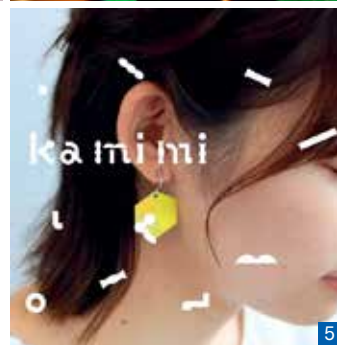




会社に入社して、 一番やりがいを感じたことは？

先輩インタビュー

お客さまや出店者の方々の 笑顔にやりがいを感じます

現在は「オクトーバーフェスト」などの主催イベント事業をはじめ、自治体や民間企業などのプロモーションを行っています。各プロジェクトを担当する際には、お客さまが望む効果が本当に得られるのかを考え、最善策を練るように努めています。主催イベントは準備段階から試行錯誤を重ねて当日を迎えるため、会場に来ている方々や出店者の方々の笑顔を見るとやりがいを感じます。地域のお客さまのプロモーション支援ができることも大きな喜びを感じます。今後は主催イベントなどを通じて、宮城の新しい文化として根付くような事業を創造していきたいと考えています。



やりたいことを
実現できます！



profile
【名前】高橋 宏祐 【在職年数】3年8ヵ月
【配属】地域ブランディング3チーム

1 多角的な事業展開には、グループのパーパス（存在意義）「ひととちいきのミライをゆたかにする」が貫かれている。2 主催イベントの一例「仙台オクトーバーフェスト」。食・アート・市民の交流と、地産地消によって地域活性化を目指している。3 コミュニケーションを大切にしたフリーアドレスを導入するなどオフィス環境の改善も図られている。4 対面とオンラインで生産性の高い職場環境を実現しているハイブリッドワークは社員にも好評。5 印刷・加工技術をファッションアイテムとして展開するプロダクト「kamimi（カミミ）」がある。6 ステークホルダーと共に取り組むソーシャルアクションとしての「深沼ビーチクリーン」。毎月1回開催され、100～300人が参加している。

会社情報

■設立 1960年1月
■代表 今野 均
■資本金 6,000万円
■従業員数 137人（男90人／女47人）

〒984-8516
仙台市若林区土樋103
TEL／022-714-8311
FAX／022-714-8312
https://www.u-media.jp/

求人情報

■初任給 210,000円～
■福利厚生 健康保険、雇用保険、労災保険、厚生年金保険、企業年金基金、従業員持株会、慶弔見舞金制度、保養施設、社内懇親会（ビアパーティ、ボウリング大会、社員旅行）、など
■休日休暇 週休2日制（土・日曜）※祝日がある週は土曜出勤、祝日、夏季休暇、年末年始休業、年次有給休暇（初年度10日）、慶弔休暇、産前産後休業、育児休業、介護休業、など
■職種 企画営業職
■インターンシップ受け入れ／あり（要相談）
■大学生アルバイト受け入れ／あり（要相談）
■採用担当者連絡先／TEL022-714-8311（人材・組織開発チーム）
✉saiyo@u-media.jp

■CORPORATE RESEARCH
☒ 会社案内請求
☒ 自社説明会
☒ 会社見学

採用ページはコチラから



マイナビ リクナビ

株式会社ユーメディア

広告・印刷・プロモーション支援

file26

高い志でアップデートし続け、 ちいきのミライ、わたしたちから



地域未来牽引企業

地域の活性化に
繋がる事業を展開

『ユーメディア』は1960年に印刷製造業として創業。仙台・宮城を基盤にお客さまの想いと地域をゲンキにすることを大切にしながらビジネスモデルを変革してきた。現在は印刷のほか、Web・映像・イベントなどのメディア制作を通じてトータルプロモーションを行っている。また、自社の地域コミュニティサイト『せんだいタウン情報EACHIO』、グループ会社『プレスアート』発行の『せんだいタウン情報S-style』、仙台エリアのコミュニティFM局『ラジオ3』などと連携。これらの強みを活かし、「ちいきのミライを自分たちから創ることができる」会社として事業の幅を広げている。

コロナ禍を越え、
主催事業をアップデート

同社は地域の賑わいを自ら起こすべく、さまざまなイベントを主催。その中に2006年から毎秋開催している「仙台オクトーバーフェスト」がある。同イベントは東日本大震災が発生した20

創造性の最大化を目指し
成長支援を展開

同社では社員の能力と創造性の最大化を目指し、成長支援のための1on1や各種研修制度の拡充など、数々の人事施策を展開。また、かつての全社大会を創造的な対話の場へと進化させた「ミライサミット」は全社員が視座を高め、経営方針と向き合う場となっている。『ユーメディア』は社員一人ひとりのアップデートにより地域のミライを創っていく。

11年にも開催。「こういった場所を待っていた」「大変だけど頑張っていた」などの声が数多く寄せられたため、その後も地域活性化に繋げるべく継続して開催している。新型コロナウイルス感染症の拡大により、リアルでの開催ができずにいたが、2022年には感染症対策を施しながらの開催を決定。このタイミングで主催イベントを復活させることにし、地域の方々や出店者の方々が何を期待しているかを考え、コロナ禍を経て、復活にとどまることなく内容をアップデートした開催となった。